

4つの「基本戦略」

1 生物多様性を社会に浸透させる

- ①地方・企業・NGO・国民の参画を図る「いきものにぎわいプロジェクト」の展開
 - ・地方版戦略のための指針
 - ・企業活動ガイドラインの作成
 - ・生物多様性に配慮したライフスタイルの提案
- ②放課後の自然体験学習や「五感で感じる」原体験

2 地域における人と自然の関係を再構築する

- ①「未来に引き継ぎたい重要里地里山」の選定と共有資源としての管理モデル構築
- ②鳥獣とすみ分けられる地域づくりと担い手育成
- ③生物多様性の保全に貢献する農林水産業の推進
- ④希少動植物の生息できる空間づくりと外来種の防除

3 森・里・川・海のつながりを確保する

- ①国土レベルの生態系ネットワークの具現化
- ②「国立・国定公園の総点検」と自然再生の推進
- ③漁業と両立する海域保護区のあり方検討

4 地球規模の視点を持って行動する

- ①生物多様性条約 COP10 の誘致実現
- ②わが国の「生物多様性総合評価」の実施
 - ・生物多様性指標の開発
 - ・危機の状況の地図化、ホットスポットの選定
- ③自然共生モデルの世界への発信（SATOYAMA イニシアティブ）
- ④生物多様性の観点からの温暖化緩和策と適応策検討（森林・湿原の保全、生態系ネットワーク形成のあり方など）